

第3期真狩村デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略のお知らせ

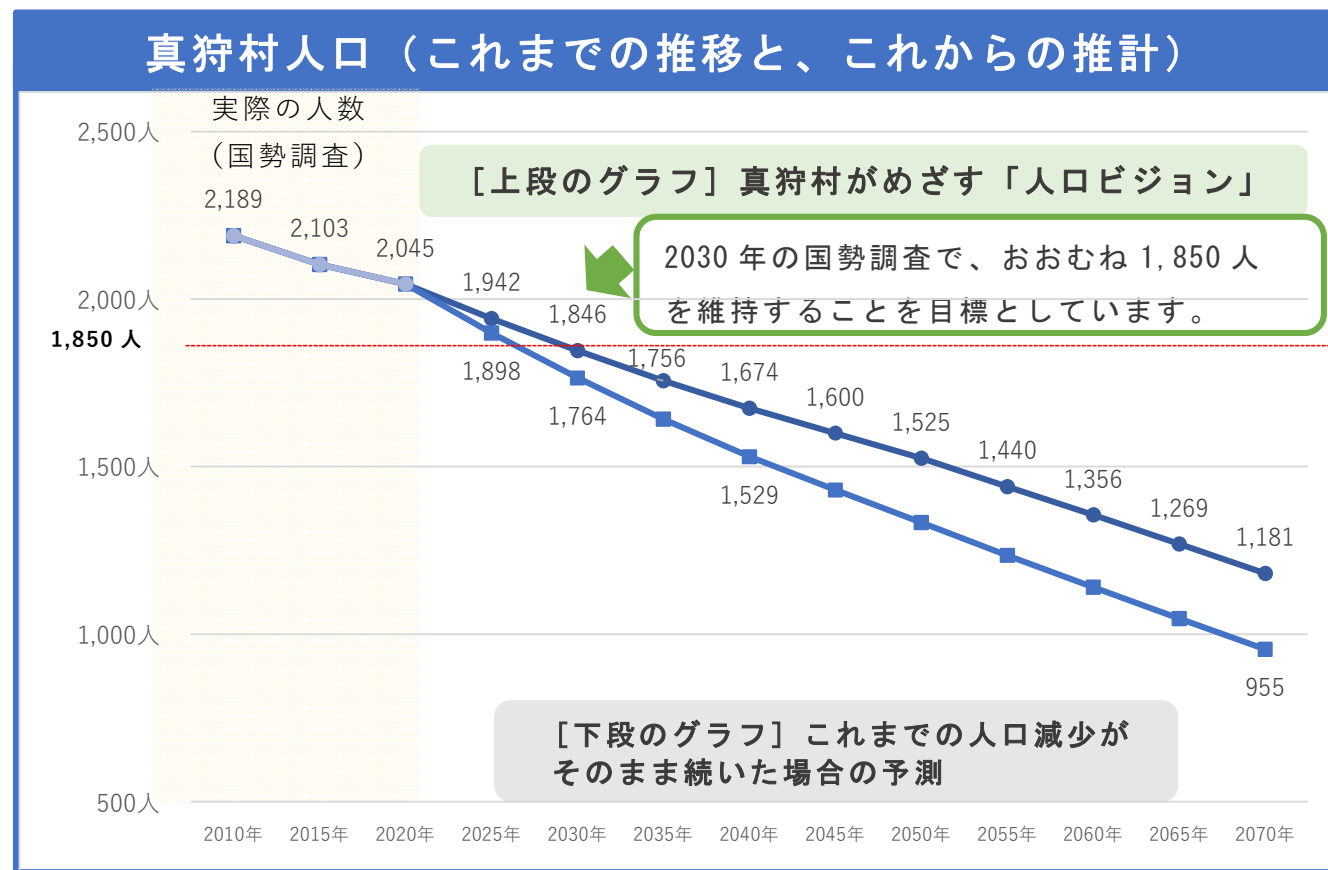


第2期のとりくみ結果（人口の動き）

真狩村では、「真狩村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定し、人口減少を抑える取り組みを5年間、進めてきました。

その結果、2020年の国勢調査人口は2,045人となり、想定していた人数（1,999人）を上回りました。この5年間は、人口減少のスピードが抑えられている状況です。

第3期は、2030年の国勢調査時点で「おおむね1,850人の規模を維持する」ことを目標としています。



今回策定した新たな総合戦略（第3期総合戦略）は、計画期間が2025年から2030年までの6年間です。
人口の目標については、計画期間の6年間で、「おおむね1,850人を維持する」とします。

第3期総合戦略の概要

第2期で位置づけた「4つの基本目標」の方向性は引き継ぎ、国が新たに位置づけた「デジタルの力を活用した地方の社会問題解決・魅力向上」や「デジタル基盤整備」「デジタル人材の育成・確保」「誰一人取り残されないための取組」を踏まえて、取り組んでいきます。



4つの基本方針と目標数値

基本目標1

さまざまな分野で「働く場」をつくります



定住、移住を推進するには、村内に働く場があることが重要です。

基幹産業である農業をはじめ、その他の産業についても活性化させ、いろいろな分野で働ける場を増やします。

- 農林業を除く従業者数 [現状] 569人 → [目標] 569人
- 農家構成員数 [現状] 336人 → [目標] 336人

基本目標2

真狩の魅力を高め、交流・関係人口や移住者を増やします



本村には、羊蹄山をはじめ、そこからもたらされる美しい風景や水、農産物やさまざまな「食」に魅力を感じ、多くの人が集まります。

これらの人が関係人口、交流人口となるように努め、域内経済の活性化や移住者の増加に結びつけていきます。

- 社会増減 [現状] 6年間で29人減少 → [目標] 6年間で29人減少

基本目標3

真狩で子育てする人を応援し、増やします



子育てや教育の場としてもっと魅力を感じてもらえる村となるために、子育てや教育等に関する環境づくりやサービスの充実に取り組み、子育て世代やその子どもたちを増やします。

- 出生数 [現状] 6年間で92名 → [目標] 6年間で96名

基本目標4

いつまでも住みよい村をめざし、不安や不便さによる人口流出を抑制します



本村に住み続けたいと思いつつも、日常生活の不安や不便さを理由に転出する人もいます。

日常生活で感じる不安の解消や利便性の向上に努め、真狩に住み続けたい人が住み続けられるようにし、人口流出を抑制します。

- 転出者の抑制 [現状] 6年間平均で▲133人 → [目標] 6年間平均で▲126人以下

基本目標 1

さまざまな分野で「働く場」をつくります



（１）農業における働く場の拡大

- ①農業後継者の就農、パートナーづくりの支援
 - ・農業後継者が農業を継承するうえで必要な支援を行い農家数（経営体数）の維持に努めます。
 - ・農業後継者を中心にパートナーを得ることを応援し、さらなる農業継承を促進します。
- ②農業労働力の維持、省力化
 - ・農家が単独で日雇い労働者を探すのが困難になりつつあるなか、しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプランを活用するなど農家へ労働者を仲介し、農業労働力の維持に努めます。
 - ・新たな技術を活かした「スマート農業」の導入、普及を促進し、農業労働力の省力化に努めます。

（２）農業以外の産業における働く場の拡大、起業の支援

- ①真狩村商工会と連携した産業支援体制の強化
 - ・村内の事業所や商店などへの支援体制を強化し、農業以外の就業者の維持に努めます。
 - ・高齢化や後継者不足による商店などの廃業や休業の抑制を図り、事業承継の支援を行いながら、現状の商店機能の維持に努めます。
- ②創業支援の充実
 - ・創業に関するワンストップ相談窓口を商工会が担い、本村で新たに開業を志す人たちを支援します。



（３）農業を軸とした産業振興

- ①農畜産物をいかした商品開発、起業の推進
 - ・農畜産物をいかした加工品づくりの支援や企業の誘致などに努めます。
 - ・道の駅など直売所での販売や観光客を対象としたいも掘り体験（イベント）などを支援します。
 - ・真狩高校での農畜産物を活用したお菓子のメニュー開発、販売体験などを支援します。
- ②地場産品の販路拡大の支援
 - ・「真狩産」として村外で流通、販売されるよう、真狩ブランドとしての流通・販売を促進します。

基本目標 2

真狩の魅力を高め、交流・関係人口や移住者を増やします



（１）地域資源を活用した観光の振興

- ①地域資源を活用した観光ポイントの充実、観光地としてのイメージの向上
 - ・羊蹄山等の地域資源をいかした観光地づくりや利便性などの機能向上に努めます。
 - ・観光地としてのイメージづくりや情報発信、観光客が村内で観光情報を受信しやすい環境づくりや、村の情報を発信したくなる魅力づくりに努めます。
- ②滞在型観光を促す環境の整備
 - ・本村にある地域資源や人材等を有効に活用し、冬季の観光も含め魅力的な観光メニューを増やします。

（２）移住・定住を促す住宅環境の整備

- ①住宅に関する情報提供の充実
 - ・移住・定住の希望者が土地や住宅に関する情報を得やすいように、情報提供の充実に努めます。
 - ・本村への移住・定住を希望する人たちが、知りたいこと、困っていることに迅速かつ柔軟に対応できる窓口であるよう努めます。
- ②自ら住宅を整備する移住・定住者への支援

- ・移住・定住を希望する人が住宅を建築することができるよう、民間事業者と協議を進めながら、定住促進用の分譲地 PR を行います。

③移住・定住が可能な住宅の増加促進

- ・民間事業者が行う集合住宅建設へつなげる施策を検討します。
- ・空き家への居住を希望する人たちに空き家を提供する機会が増えるよう、住み替えを促進します。
- ・移住定住者等に向けた住宅整備や公共施設活用などを検討します。



基本目標 3

真狩で子育てする人を応援し、増やします



（１）子育て世代の負担の軽減

- ①子どもの健康を守る費用の負担軽減
 - ・子どもの医療費に関する負担軽減を図るため、中学生までの医療費無料を継続し、新たに高校生までの医療費無料化を行う予定です。
 - ・他町村と比べて割高と感じられている乳幼児から 64 歳までのインフルエンザ予防接種費用を減免します。
- ②新婚世帯、子育て世帯の負担の軽減
 - ・新婚世帯の生活支援や子育て世帯が抱える精神的・経済的な負担などを軽減できるよう、ニーズを把握しながら支援します。



（２）子育てや教育に関する環境の充実

- ①子どもが安全に遊べる環境の充実
 - ・子どもが安全に遊べる環境を求める声に応えるため村内の遊び場の充実や利便性の向上に努めます。
 - ・入所している子どもたちやその親たちが利用しやすい保育所や子育て支援センターとしていくため、幼児向け屋内遊具など保育所等の設備の更新・充実に努めます。
- ②少人数や立地によって生ずる教育・スポーツ格差の解消
 - ・少人数であったり、都市部から離れていることで限られがちである教育環境やスポーツ環境が、現状より改善・拡大するよう、各種取組を通じて、小中学生の学力・体力増進を図ります。

基本目標 4

いつまでも住みよい村をめざし、不安や不便さによる人口流出を抑制します



（１）日常生活の不便さを解消する環境の充実

- ①日常生活での困りごとへの対応の充実
 - ・困った時にまず相談できる場として、役場の窓口での対応をより一層向上させるとともに、広報紙やホームページ、防災無線などを、より分かりやすく村民が知りたい内容となるようにします。
 - ・村民が年を重ねても村内での生活を続けることができるよう、切れ目のない在宅医療と介護の提供、相談体制の構築、医療・介護関係者の情報の共有などを推進します。
 - ・デジタル基盤を整備し、仕事づくり、人の流れづくり、子育てしやすい環境づくり等を図って、日常生活の不便さを緩和し、転出者の抑制を図ります。
- ②災害など緊急時の不安や不便の軽減
 - ・日ごろからの災害の備えの大切さや災害時の避難に関する情報を周知するなど、住民の「自助」「共助」の力を高めます。
 - ・災害が発生しても、だれもが無事に避難し、避難生活を送ることができるよう、災害時における体制や環境整備など「公助」の力を高めます。

「第 3 期真狩村デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略」

